



学校教育目標 社会に貢献しながら、
自立する生徒の育成
～気づき、考え、実行する～

やまゆり

校訓 「和の心」

指導重点

- ① 居心地がよく、やる気のある
学級集団・学校づくり
- ② 確かな学力の育成
- ③ 豊かな心の育成
- ④ 健やかな身体の育成
- ⑤ 特別支援教育の推進
- ⑥ 生徒の良さを伸ばし、課題を解決するための
「連携・協働」の推進



「定期テスト」から 「単元内テスト」へ

前回に続き、「単元内テスト」について取り上げます。今回は、Q&A形式で説明します。

Q1:「(単元内)テスト」を実施するねらいは？

A:ズバリ、学力の向上・定着を図ることです。これは「単元内テスト」でも変わりません。

Q2:テストの取り組み期間を設定しないと、自主学習をしなくなるのでは？

A:本来、勉強は自発的に取り組むものです。テスト前だけでなく、年間を通して、普段からコツコツ勉強に取り組む姿勢が大切です。テストの実施日を事前に周知して、取り組みができるようにしています。

Q3:「単元内テスト」の実施日を、各教科で統一することはできませんか？

A:各教科の学習内容のまとまり(単元)が異なりますので、テストの実施日も異なります。各教科の実施日が重なり、毎日のようにテストが続いたり学校行事の準備等と重なったりして、生徒の負担が大きくなることもあるのではないかとといった懸念もあります。今後の課題です。

Q4:成績(評価・評定)は、どのようにしてつけられるのですか？

A:「単元内テスト」の結果はもちろんですが、授業に取り組む姿勢や提出物・成果物、実技等を総合的に判断して、成績をつけています。先生方からは、テストの回数が増え、かえって業務量が大きくなるといった心配の声もあります。今後の課題です。

Q5:通信表は変わりますか？

A:通信表の変化はありません。通信表の見方については、別紙資料をご覧ください。

思春期を迎えた生徒たち

中学時代、この時期は「思春期(前青年期)」とか「反抗期」等といわれています。ご家庭では、

“以前より気むずかしくなった”とか“あまり口をきかなくなった”程度かもしれません。

しかし、学校場面では、その様子が異なる場合があります。それは、**集団で生活しているから**です。その中において、それぞれの生徒が、仲間を意識しながら、“自分”という存在を探し続けているのです。それが、この時期の大きな特徴でもあります。

自分自身の存在意義を見出し、目的意識を高くもつような生徒は、落ち着いた環境(気持ち)で、安定した生活を送ることができます。勉強、部活動、趣味・特技、友人関係等は、良好に保たれ、“自立”への道のりを歩んでいきます。中学3年間で、精神的にも大きく成長します。

一方、目的意識が低く、自己の存在を否定したり過大に誇示したりすることもあります。このような場合、なかなか良い方向には進みません。物事を善悪ではなく好き嫌いで判断したり、学校内外の仲間と徒党を組んだり、気になる言動がエスカレートしたりします。決して悪くはないのに“悪ぶったりいきがったり”します。真面目に努力することを否定し、生活も乱れ始めます。

この時期の生徒の支援と関わりは、なかなか難しいものがあります。学校や集団の中で、家庭とは異なる“顔”が見え隠れします。

そこで、保護者の皆様にはお願いがあります。我が子の何気ない日常生活を取りあげて、“愛情のある声かけ”をしてください。よろしくお願いいたします。

15の提言 事業化へ!

道志村観光動画(歴史名所PRラッパ)

本校卒業生の「15歳の提言」が、道志村の施策として、事業化されました。

本校の「総合的な学習の時間」では、地域との連携・協働を柱に「郷土に関する学習」を体系的に行っています。各自がテーマを決め、探究的な学習で、知識・技能、思考力・判断力・表現力を育成し、主体的に学習に取り組む態度を培っています。

YouTube「道志村観光PR動画」をご覧ください。